

わが音楽教育への反省

林 光



昨年の夏期研修会において好評を博した氏の講座から、その要旨をお伝えしたいと思う。

……僕も音楽を職業にしているうちに、ピアノを大勢が勉強する、ということはあまり盛んにならない方がよいのではないかと思うようになったのですよ。

こういう事をこういう会で言って実に変なものですけれど、で、現にピアノ指導に当たってこれからピアノ教授に携わっていかれる皆さんに、お役に立つようなことは何もいえないのではないかと思います。

最悪の場合まったく役に立たないかもしれませんが、私は作曲家ですので、私の作品でも聞いていただけたら、少しはお役に立つこともあるかもしれないと思って出て来ました。初めにお詫びしておきます。

そういうわけで、僕は系統だった話はできないと思うんですけど、ただ僕自身ピアノがとっても好きですし、生れて最初に弾いた楽器がピアノですので、ピアノと僕との関係みたいなものを、話の糸口にしていきたいと思います。

僕の子どもの頃

僕の子供のころのピアノのレッスンというのは、このごろの子供達のイメージとちょっとちがうのかも知れませんが、日曜日になるとカバンの中に譜面を入れて家を出るわけですね。冬は寒いし雨が降ったりなんかすると長靴か何かはいちゃって、それで、長靴はいて歩いているとクツ下が靴の中でどンドンぬげてきちゃって、そう言う事は子供にとって憂鬱なものですよ。それで先生の家ってのはだいたい薄暗い玄関があって、中に入ると広い部屋にピアノが二つ並んでいて、それで先生は何か、昼めしか何か出てこないし(笑)火ばちが一つあって、火が入っていることは入っているんだけど、何となくガチガチふるえながら、手は冷たいし、火ばちであったためって手はあったまらないんです。ピアノを弾けるようにはね。で、まあそういう事が真先に思い出されるんですがね。

そこでまあ色んな事をやる。バッハのインベンションかなんか弾いて、それから……僕はまあ、幸か不幸か、ピアノだけじゃなくて子供の時からわりとはやく音楽の教育を受けた方ですね。ですから譜面はわりとはやく読

めた。譜面が読めても指は動かないですからね。差があるってのはいやでわ、つまらないわけです。指の練習やなんかあまりしないし。僕は色んな先生を点々としまして、井口基成先生にどなられて、「おメエはこんなものは音楽じゃネエと思ってるから弾かネエんだろう」言うから、「そうだ」って言うと、「それはそうなんでこれは音楽なんかじゃネエんだ。音楽なんかじゃネエんだけど、これを弾かネエと音楽が弾けるようにならネエんだ、だから弾いて来い」って言われて、その時はそう言うもんかと思ってた。

ただこのごろ必ずしもそうは思わない。やっぱり音楽じゃないもので音楽を訓練するってのは、本当にいいものかどうか？ てことは僕はこのごろちょっと疑問になって来たんです。まそのころはなるほどそう言うもんかと思ってたけども、あんまりさらわなかったですね。

ピアノのレッスンというのは、だいたい前の人の弾いているのを聞きながら待っているわけですよ。それも勉強のうちだといわれるけれど、僕は割合小さい時から井口先生の所にレッスンに行っていたから、待たされている間眠って大きな鼾をかいたらしくって、先生に怒られたりしましたっけ(笑)。

……自分のレッスンの時も色々自分でも不満があるんだけど、例えば何ていうかな、なぜその、ある曲の弾き方ってものかな、そういうものがきちっとあって、そりゃ先生によって違うんだろうけど、それにしてもきちっとあって、こう言うふうに弾けってられるわけ。やっぱり色々教える上での色々なテクニックがあるんだろうけど、結局言ってることは「そう言うふうに弾くべきだ」と言っているように、僕は子供心に思うわけ。

でも、自分ではこう感じるのに、何故感じた通りに弾いちゃいけないのかなと、子供だから理路整然と考えていたわけじゃないけれど、いつもそう思っていたのです。

なんだかんだと言いますけれど、僕がこうやって一応はピアノを弾けるのは、半分は先生について長い間習ったお蔭なんですけれど。

「あとの半分というのは、自分でいろいろなことをやってみたり、必要にせまられてピアノを弾いたりして、わかってきたと思うのです。

エキストラで学んだこと

僕はオーケストラのエキストラのピアニストをしていたことがあったので、方々へ行ったわけです。

ピアノは持って歩くわけにはいけないので、そこにあるピアノで演奏しなければならぬ。そりゃ、ひどいピアノがあるでしょ。ボロボロのピアノ、半音位音の下ったピアノなんかもあったりするけど、お客様からお金をもらうのだから、どんな手段を使っても、僕はそのピアノで音楽を言わなければならない。

例えば、

(シューベルトの冬の旅の「ポスト」の伴奏を弾かれる)

このピアノでは、この程度の弾き方でも、この感じはできるけれど、もっとひどいピアノだったとしたら、違う弾き方をしても、この曲の感じを出すわけですよ。

(「ポスト」を先程とは違ったタッチで演奏される)

それから、こういうことだってあるわけで例えば、中央のCを弾いても音がでない、それがC-durの曲だったりしたら、大変でしょ。

だから、一オクターブ下のCを弾いたり、こっち弾いている間に、パッと上のCを弾いたり(笑い)ピアノが悪いからと聴衆にいうわけにはいかないでしょ。喉が悪いから声がでません、では通らないのと同じです。

そうこうやっている内に、僕はとてもピアノが好きになって来たんです。

子供がレッスン受けると、よく「うたって」と先生はおっしゃるでしょう。皆さんも言ってるらっしゃると思うけれど。

だけど、「何をうたうのか」「うたうということはどう言うことなのか」という二つの事がわからなくて、「うたえ」と言われたって無理なんだということを、僕は大人になってから解ったような次第です。

よく地方へ行くと、そこの主催者の方が「ピアノはどうですか」とか、「ピアノが悪くて申し訳ない」なんて必要以上に恐縮しきったりしていることが、よくあるわけなんだけれど、それは、以前に来たことのあるピアニストが、「ピアノがまずい」と言って帰えるらしいのね。

そりゃ、ピアニストにとっては、完全な状態で演奏したいのはわかるけれど、ピアノが少し位悪くっても、やっぱり音楽できるようなでなければ、音楽家ではないような気がしますね。

勿論、ピアノが悪いために、でるべき効果も上らないという場合だってあるわけだけれど、それを差し引いてなおかつ、何か残るものが、音楽じゃないかと思えますね。

変な言い方ですけど、ピアノというのは、愛情持っ

て接すれば、完全ではないですけど、ある程度は答えてくれるものなんですよ。

ということは、ピアノで自分の「歌」をうたえるようになるには、時間がかかることだけど、その時間が、使う人の音楽を育てていくのだと思います。

電子オルガンのこと

僕は電子オルガンの類ってというのは、あまりなじめない。なじめないというのは、控え口と言っている(笑い)あまり好きじゃない。

初心者でも、「キーの上で指を動かせば、きれいなメロディができます」なんて言う楽器、或いはそう言うシステムは、僕は信じられませんよ。

そうじゃなくて手間ひまかけて創っていくのがよいのではないのでしょうか。

勿論、電子オルガンには、電子オルガンの用途がありますけれど、ピアノと比較してどうのこうのとは、言えないと思います。

例えば、ピアノは一度弾いた音が、だんだん消えていく風流な楽器ですけど、電子オルガンの悪口をここでちょっと言わせてもらいますよ。

(ベートーヴェンの田園交響曲をピアノで弾かれる)

ピアノというのは、ピアノ曲を弾くだけでなく、いろいろな曲を弾くことができる。自分でそのつもりになって弾いて楽しむことができると思う。

僕は子供の時、レコードを聞いて、いろんな曲を覚えピアノで、何とかしてオーケストラの音を出そうと苦心したものです。特別そういうことが好きだったのかも知れない。

エロイカシンフォニー(ベートーヴェン第3交響曲)の冒頭、これは電子オルガンでは弾けない。ピアノだと弾けるんです。

(先生、エロイカの冒頭ピアノで弾かれる)

僕の好みというのかな、ピアノがとても合っていると思うのです。

ピアノ奏法の問題が……

ただ、そうなってくると、僕がピアノ習っている段階ではなくて、自分で好きな音楽を弾くようになってくるとどうしても弾き方に問題がでてくるわけです。

例えば、手の形は、真中にピンポン球がはいるような形で弾きなさいと言われて、苦労したものですけれど、じゃどんな曲でもそういう指の形で弾くことができるか、というと、ちょっと弾けないような気が、だんだんして来たんですね。

勿論、基礎をやっておくという意味は、認めるわけですけど、あるキマリというものがあってそれが一応の基準となるという考えではなくて、お手本をなぞっていくようなやり方に、僕は子供心に反抗したのだと思うし、今ではそれを意識してそのように考えているのですテンポのこと

……よく電話なんか、かかってきて、僕の曲を演奏してくれるって言い、それで楽譜には、メトロノーム幾つと書いてあるのに、レコード買って聞いたら、幾つになっていた、どっちが本当なんですか、なんて聞く人がいるんですよ。

そんなこと言われたって困ってしまいますよ。だいたい速度の指定なんていうのは、書くとすれば、曲を書き上げて、曲を渡す時に書くんです。つづく、次号をお楽しみください。